



# 中学校長会々報

発行日  
昭和37年3月6日

## 発刊のことば

会 長 黒 田 邦 博

昨日が過ぎて、また明日が来るように、時は流れて本年もまた年度末を迎えた。

無事であるということは、あたかも平和そのものであるかのようにみえて喜ばしい感じがしないわけでもない。しかしながら、このままで果してわれわれがぞんではいるところの社会の平和なのであるか。

生徒は心身共に未来に夢をもつ中学校の頃が、最も高度の躍動期であるといわれている。

加うるに生徒激増の問題は、中学校発足以来の全国的なものとして、それが対策についても万全を期さなければならぬ現実である。今や中学校は、みずから一大転機が要請されているのである。

生徒の学校生活は勿論のこと、家庭生活、社会生活、更には広く国際的な諸情勢の急ピッチな変移の中にあつて、担わらる温室的生活ではあり得ない。それ

は、これら諸情勢と大なり小なり無関係で過すことができないからである。即ち人生観に対する内面的な個人の問題、科学、技術、宇宙に関する問題、生産経済の問題、生活環境等の問題、レジャーの諸問題等々、生徒をとりまく問題

は、量的にもますます複雑となりつつある。

その様式、態度、心理感情等の問題に対処して、時にそれに適応し、時にその改善、解決のために創意と工夫とをもつて、真の能力を発揮していかなばならぬのが現代人の生活である。

これら国内的、国際的諸問題は、一面は生徒自身の理想と現実の交錯点であると共に、他面では、その一つ一つが政治的にも人間能力の開発を含む問題ともなるわけである。さればこの国でも、本腰をすえて、人間能力の開発をその重要施策としてきたのである。

校長は、この時この際、唯学者風に自己にだけ沈潜してはならない。わが中学校長会は、これらの問題と共通の悩みとに対して組織と機能を充実し、相協力して問題を解決処理していきたいものである。そのためには活発に情報を交換し、互に向上発展のみちを辿りつつ、更に教育行政関係者や、地域内関係諸団体、父兄等と密接な連絡をとり、教育施策、技術の改善向上策を適正に見いだし、真に幸福な人間社会建設の担い手としての青少年教育に、一層の努力をささげたいと念願する次第である。

## 中 産 振 会 だ よ り

一、研究奨励校について  
各地区の自主的研究を活発にするため、つぎの条件で研究奨励校を設置  
(1) 北部・中部・南部に各一校あり、本部より補助五、〇〇〇円、支部より同程度の補助を受ける。

(2) 本年度は北部矢板中、中部星ヶ丘中、南部毛野中が協力。教科の研究及び講習会を開催

二、「中学生の進路」について  
これも中産振会の事業の一環として、専門委員会第六郡の先生が中心となり「私達の進路」上・下巻を発行し、昭和三十六年度より「中学生の進路」全巻に改訂し現在に至っている。昨年

の状況は大多数の学校が使用し、好評を博しており、今年には既に二二、〇〇〇冊の希望冊数がみられる。テキスト注文書は各学校にお送りしてあるので、未通知の学校は至急中産振事務局及び栃木県教科書供給所にお送り下さい。

三、会費について  
賛助会員

本規約第5条に「個人会費（一口）五〇〇円、団体会費（一口）一、〇〇〇円とあります。各支部ともだいぶ会員が増加している。

(3) 一般会費について  
本年度の職員録に記入してある生徒数で計算を願います。各支部で送付する場合は、本部より「実技コンクール費」を支出する関係上、これを差し引いて下さって結構です。参考までに実技コンクール費を明示しておきます。

|     |         |
|-----|---------|
| 河内  | 一三、〇〇〇円 |
| 足利  | 一一、〇〇〇円 |
| 塩谷  | 一一、〇〇〇円 |
| 上都賀 | 一三、〇〇〇円 |
| 那北  | 一一、〇〇〇円 |
| 安蘇  | 一一、〇〇〇円 |
| 下都賀 | 一三、〇〇〇円 |
| 芳賀  | 一一、〇〇〇円 |
| 南那須 | 九、〇〇〇円  |

## ◎ 会 計 部

昭和三十六年度中学校長会々費、並に慶弔費につきましては、完納していただきまして本会の運営に多大の御協力を賜りましたことを感謝致します。



教員勤務量調査

|            |    | 勤務項目                  | 調査人員数 | 総延週時間    | 1人平均週時間数 | 平均1日時間 | 小計の割合 |
|------------|----|-----------------------|-------|----------|----------|--------|-------|
| A<br>勤務時間中 | 1  | 教科指導時数(補教時数を含む)       | 75人   | 87.025分  | 1.160.3分 | 193.4分 | 44%   |
|            | 2  | 教材研究・指導案作成・指導準備       | "     | 17.920   | 238.9    | 39.8   | 9     |
|            | 3  | 評価(宿題添削・テスト採点記入等)     | "     | 17.910   | 238.9    | 39.8   | 9     |
|            | 4  | 打合せ会(職員会議研修会学年会教科部会等) | "     | 9.045    | 120.6    | 20.1   | 5     |
|            | 5  | 道徳の時間指導時間数            | "     | 2.460    | 32.9     | 5.5    | 1     |
|            | 6  | 学級活動指導時間数             | "     | 11.210   | 149.5    | 24.9   | 6     |
|            | 7  | 進路指導(面接・相談・事務等)       | "     | 6.670    | 88.9     | 14.8   | 3     |
|            | 8  | 生徒会活動指導時間数            | "     | 1.420    | 18.9     | 3.2    | 1     |
|            | 9  | クラブ活動指導時間数            | "     | 3.525    | 47.0     | 7.8    | 2     |
|            | 10 | 学級事務(学級に関する事務一切)      | "     | 6.900    | 92.0     | 16.3   | 4     |
|            | 11 | 校務分掌事務                | "     | 11.185   | 149.1    | 24.9   | 6     |
|            | 12 | その他の事項                | "     | 21.320   | 284.3    | 47.4   | 11    |
|            |    | 小計                    |       | 196.590分 | 2.621.2分 | 436.9分 | 100   |
|            |    | 同上時間換算                |       |          | 43.7時    | 7.3時   |       |
| B<br>勤務時間外 | 1  | 教材研究・指導案作成・指導準備       | 75人   | 16.350分  | 218.0分   | 36.3分  | 24%   |
|            | 2  | 評価(宿題添削・テスト処理)        | "     | 23.305   | 310.7    | 51.8   | 34    |
|            | 3  | 生徒指導(家庭訪問など)          | "     | 23.305   | 310.7    | 51.8   | 34    |
|            | 4  | 学級事務                  | "     | 2.385    | 31.8     | 5.3    | 3     |
|            | 5  | クラブ活動指導               | "     | 3.730    | 49.7     | 8.3    | 5     |
|            | 6  | 生徒会活動指導               | "     | 1.215    | 16.2     | 2.7    | 2     |
|            | 7  | 校務分掌事務                | "     | 7.650    | 88.7     | 14.8   | 10    |
|            | 8  | その他                   | "     | 11.055   | 147.4    | 24.6   | 16    |
|            |    | 小計                    |       | 67.110分  | 908.1分   | 151.3分 | 100   |
|            |    | 同上時間換算                |       |          | 15.1時    | 2.5時   |       |
|            |    | 計                     |       |          | 58.8時    | 9.8時   |       |

栃学体連理事會

一月二十七日、一条中学校に於て  
 一、昭和三十六年度優秀選手表彰について  
 昭和三十五年度に準じて表彰することに決定。  
 二、昭和三十六年度中学校体育運動優良生徒について  
 表彰規定を一校二名(原則として男女各一名)と変更する。  
 三、昭和三十六年度小学校健康優良児童表彰について  
 昭和三十五年度同様表彰する。  
 四、反省事項  
 (1) 各種大会の運営について、栃学体連と栃高体連とは緊密な連絡をとって、相互に協力することになってはいるが、休日以外の日に大会行事が行われると審判員等に支障を来たので、ぜひ共土曜日や休日等に大会を開催するよう要望する。  
 (2) 教職員体育祭については、実施の方法に考慮の余地が多分にある。たとえば、各地区における大会を盛んにして多数の参加を促し、レクリエーション的雰囲気醸成につとめて、真に教

職員体育祭としての目的を達成すべきである。また二年に一度に中央大会として、各地区から各種目別に代表が集って大会をもつことも考えられる。  
 (3) 各種目別の専門部員の選出にあたっては、一校にかたよらないようにしたい。  
 (4) 各都道府県中体連は相互の連絡及び、共通問題等の協議のため、全国中学校体育連盟、関東中体連協議会(二者共会長は全中校長会長 平良忠路氏)の組織をもっているが、特に放送陸上競技や、選抜水泳大会等全国的な行事をもつ種目については、現場の声が中央部の体育関係機関に直通するよう、全中体連、関東中体連に専門部を設ける必要がある。  
 五、昭和三十七年度行事について  
 (1) 各種県下大会は昨年度のように総合大会形式によって八月六日から一週間以内実施すること、但し、陸上競技は八月二十九日に実施、昭和三十七年度行事予定は後日発表する。  
 (2) 研究会、講演会等を数多くもつこと。

一、調査目的  
 一週間にわたる教員の勤務量を調査して勤務内容の時間的割合を抽出し、教員の職務について、反省資料を提供すると共にその原因を探る。  
 二、調査対象  
 勤務の同一条件にある学校規模八学級の全中学校(十校)  
 三、調査期日  
 昭和三十六年十二月十一日から同十六日まで一週間  
 四、調査結果(別表)  
 五、調査結果の解釈  
 (一) A表(勤務時間中)  
 1. 教員として勤務しなければならぬ項目——教科指導・道徳指導・学校活動の指導・教材研究・指導案の作成・学習の評価等に多くの時間がかかっていること(約七七%)  
 2. ただ教材研究・指導案の作成・指導準備(一日平均三九・八分)および評価(一日平均三九・八分)は完全な学習指導を行う上に多くの時間をかける必要がある。その計が一日平均七九・六分(一八%)であることは甚だ遺憾である。  
 3. その他の事項(週平均二八

教員勤務量調査報告

一 調査研究部

四・三分)が全体の一一%を占めて第二位にあることは、教員に過大な雑務を負わしていることになり、注目する必要がある。学校運営に考慮を払うと同時に事務職員の配置を痛感する。  
 4. 進路指導(面接相談事務)に週平均一・五時間を要しているが、これは補導教師(カウンセラー)を専任させる必要があることを示唆している。  
 (二) B表(勤務外時間中)  
 1. 当然勤務時間中に行わなければならない教材研究・指導案作成・指導準備(一日平均三六・三分)や学習評価(一日平均五二・八分)が時間外に行われているが、これは勤務の過重を意味する。職員定数の増加が望まれる。  
 2. またクラブ活動・生徒会活動が時間外にそれぞれ(週平均四九・〇分、一六・二分)をかけているが、学校の運営に配慮すべき点がある。  
 3. その他の事項・校務分掌事務・学級事務に(一日平均四四・七分)を要していることは、事務量の過重と見られは、事務量の過重と見られ

※(4 頁上に続く)



※ 員の配当が必要である。

4. 総括して一日平均二・五時間間の超過勤務をしているわけ、いかに教師の勤務量が多いか伺われ、職員定数の増加が望まれる。

(三) A・B表を通じて

1. 総じて、教員として当然行わなければならない教科指導の準備・評価が勤務の繁雑のために充分に行われず、家庭等時間外に持ちこまれていることがわかる。

2. 従ってこれを除き、充分な指導や研究を行うためには、進路指導を専任する教師(カウンセラー)および事務を担当する職員を枠外におくことが望まれるわけである。

六、調査反省

前述のように八学級の中学校全校(十校)に調査方を依頼したが、回収された学校数は七校、教員数は七五人であった。調査を正確にし、誤りのない結果を得るために、ぜひご協力を得たいと思う。なお解釈が複雑ですので、各校においてさらに詳細に検討されるよう願います。

職員対策部だより

一、県中学校長職員対策部は協議員会の決議により小学校長会と共同して、義務教育の充実に関する要望をすることになり、十一月二十七日宇中央女子高校で小中合同対策部会を開いてより数回会議を開き

(1) 一学級児童生徒数の引下げ  
(2) 教職員定数の増加、特に事務職員をすべての学校に配置すること  
(3) 教職員の確保、特に初任給の引上げ及補助教員の確保をはかる  
(4) 教職員の優遇、特に退職手当の五条適用、勤務年数の延長、優秀教員の優遇、旅費の増額をはかる

(5) 改訂教育課程の実施に伴う、現職教育の強化  
(6) 高等学校の新設ならびに学級数の増加  
(7) 実現を期し要望書を作成、県教育委員会、知事部局、県会議長、県会文教委員、自民党文教対策委員に陳情懇談を重ねた。

其の結果、十二月県会で管理職手当一〇%増勧奨による退職手当の五条適用が実現し、初任給一号引上げが知事から確約されたことは大きな収穫であった。

二、自民党文教対策委員会

(委員長田村賢作)では教育諸条件の整備と教育の正常化を目標として現場の声を聞くため、一月三十日懇談会を開かれた。各出張所毎に小・中学校長代表、PTA代表が出席して隔意なき意見の交換が出来たことは極めて有意義であった。ここで強調されたのは

(1) 事務職員の全校配置  
(2) 補助教員養護教員司書教諭の増員  
(3) 技術、家庭科担当教員の研修確保  
(4) 特殊学級の増設

(5) 旅費の増額  
(6) 義務教育課の設置  
(7) 優秀教員の優遇措置  
(8) 教育の正常化  
田村委員長が座長となり、各委員熱心に発言され、中島県会議長、福田議員会長等も顔を見せ此の会で取上げたことは必ず実現すると力強く発言された。

三、昭和三十七年度予算案に盛り込まれた中学校関係の成果は

(1) 一学級生徒教五十名より五十二名に引下げ、県全体で二百学級増、教員三百名増  
(2) 事務職員五名増により県全体で五十三名となる  
(3) 産休教育七名増  
(4) 養護教諭一名増  
(5) 特殊学級三学級増  
(6) 旅費五千円  
(7) 昭和三十二年四月以降採用教諭一号俸アップ  
(8) 内地留学予算一〇、三四八、〇〇〇円

等である。以上の如く、今年度の運動は全会員の協力役員の熱意が認められ、今迄にない画期的なものとなった。然し、事務職員の増加五名に留ったことは誠に残念であり、文教対策委員の方も認めており、今後の努力を約束された。

四、全日本中学校長会職員対策部

山本部長を中心に、会合陳情を重ね平良会長と共に当局普に全国教育長代表に標準法の改正などを強く要望した。三十七年度予算は雑誌中学校文部公報等に報せられている如く、改善の点が可なり認められるが、尙多くの不満が残されている。これからの部の努力目標は

(1) 定数の問題——文部省としては高校定員法が決つたので今度では中学校の決めたいとの意向(以下次号)

編集後記

1. 皆さんからの要望により会報第一号が生れました。一応庶務部(大島・岩崎・島田)と調査部(益子)でやりましたが、三月六日の定例協議会に間に合せるため急いだので拙いところがあるかも知れません。

2. 各都市校長会の運営、活動の情報交換は勿論、面影を偲ぶ各校長個人の「軽妙しゃやつ」の処も織りこんで見たいと思つていきますのでよろしく。

3. 初号に滋味溢る、黒田会長の発刊のことは、益子調査部長の研究の深い処、全国的視野の広い、館野校長の「職員対策」の問題など学校運営上貴重な参考になると思います。

4. 館野校長の玉稿は残念ながら全部載せられませんでしたので次号で(大島)

発行人 宇都宮市立一条中学校長 黒田 邦 博  
編集人 宇都宮市立旭中学校長 大島 義 正  
印刷所 宇都宮市杉原町三二六四 下野印刷株式会社